

韓國の水質汚染の變化方向

漢陽大 ○ 黃媛敬, 漢陽大 申京珠

目的:韓國の水質汚染の特性と變遷過程に對する基礎的な情報を提供し、これを通じて、水質汚染の方向性を豫想し、この對策と政策の樹立の基礎資料にしようとした。

方法:新聞を利用した資料分析法によった。分析資料は日間紙の中で東亞日報を選択し、1920年の創刊號から1993年までの水質汚染をあつかった總447件の記事を使用した。

結果:①水質汚染關聯記事の傾向は記事數と記事の單數ともに1970年代以前は低調だったが、1970年代から急増し1980年代、1990年代に續いて關心の對象になっていた。

②水質汚染の内容を見ると、ア) 汚染源は1920年代の糞尿汚染から、1970年代は工場廢水、生活下水、開發、油等が集中的に現われはじめ、1980年代と1990年代は大きな變動をなく、汚染内容が深化しはじめた。イ) 被害は1970年代から初め、1980年代は水源池汚染、水道水の汚染、生態界破壊、健康被害等に多様化し、1990年代には汚染の形態が深化した。ウ) 管理及び對策は1920年代から舉論しはじめたが管理機關が獨立されなかったため政策の修行が悪かったが、1990年に環境處の發足で水質管理が一元化し、本格的に推進された。

③水質汚染關聯の總記事數の變化、記事單數の變化、主題の分類及び内容分析を綜合し韓國の水質汚染を區分した。ア) 1920年-1971年(水質汚染 1期)、イ) 1972年- 1978年(水質汚染 2期)、ウ) 1979年-1990年(水質汚染 3期)、エ) 1991年-1993年(水質汚染 4期)。

上記の分析より現在韓國は水質汚染全般にかけて問題が出ているといえる。したがって今からはもう現われた水質汚染問題の解決のため、本研究にしたかった實效性のある水質汚染管理と環境政策の推進、環境教育の擴大、環境運動への積極的な參與等が望まれる。